(第3種郵便物認可)

「トヨタ」の風

―大橋鉄工秋田との連携

◁3▷

効率化へ「改善」共有

製品管理

今月中旬、金属表面処理加工の太平化成工業（秋田市土崎港）の工場に愛知県北名古屋市から大橋鉄工の関係者が訪れ、生産現場や品質管理体制を細かく監査した。

「不良品を出さないための治具の改良や徹底した製品管理について指導を受けた。改善しては社内で共有するということの繰り返し」。そう語るのは太平化成工業の加賀孝義社長(62)。「長年変えることのなかった現場を突然変えるのは本当に大変だが、11月までに全てをクリアする」と前向きだ。

同社は11月、大橋鉄工秋田（横手市）、東京端一（大仙市）と共同でオイルレベルゲージのガイドパイプ千個を製造し、トヨタ自動車東日本に初めて納入する。まだ試験的な供給ではあるが、来年4月に量産を始める前段階としてトヨタ東日本が品質や製造、供給の流れを見るという大事な時期だ。

太平化成工業がガイドパイプ製造の打診を受けたのは3年ほど前。これまでも自動車部品のメッキは手掛けてきたものの、トヨタグループへの納入実績がなかった同社は「このチャンスを必ずものにする」と決意した。

無駄を省き、生産効率の向上を図る「トヨタ生産方式」の考え方に基づいて太平化成工業の現場改善や意識改革を進めたのは、トヨタ自動車OBで県生産改善アドバイザーの安齋義則さん(75)。安齋さんは「工場内のものの流れを見える化し、誰が見ても、どこで何が行われているか分かるようにしておかなければならない」と指摘する。太平化成工業では整理整頓の基本から徹底するよう指導した。

積極的に改善活動に取り組んできた同社品証技術部の中川祐介さん(36)は「初めは何をしたら良いか全く分からなかった。現場が変わることに戸惑う従業員もいた」と振り返る。工場に新たに棚を設置し、部品の管理状態が一目で分かる表示を作ったり、キャスター付きの台車を導入したりして、少しずつ現場の効率化を図ってきた。

あきた企業活性化センターのプロジェクトマネージャーの上林雅樹さん(65)も改善を指導した一人。トヨタ東日本で約40年間、ずっと品質管理部門を歩んできた。上林さんは「自動車業界は一度メーカーの信頼を得ると、次も仕事が来るようになる。コスト競争力を高め、岩手や宮城の企業と競っていかなければならないとが強み。加賀社長は「自動車の電動化が進む中、電子部品などの内装関係でもメッキ処理の需要は広がりそうだ。ガイドパイプの量産を成功させ、大橋鉄工秋田と一緒にトヨタ東日本への部品供給を続けたい」と意気込んでいる。

改善により部品の置き場所やラインの名称などの表示が設置された太平化成工業の工場

いそのためには工程管理能力が重要」とする。

太平化成工業は、亜鉛やニッケル、金、銀、銅など10種類のメッキを手掛け、大量生産に対応できるこ